



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙づて

留学生の悲哀というものがあ
る。周りで会話がはずんでい
るのに、自分だけついていけ
ない。大勢の中のひとりぼち
。異国の地で何とも心細い気
分に襲われるものだ。

大学の修士課程に在籍中、文
部省国際派遣留学制度を利用
して英国サセックス大学に一
年間留学した。アメリカの大
学院博士課程に入学前で、英
会話はまだまだだった。

留学して少したち、所属して
いた理論生物学部門の教授宅
パーティーが開かれた。まずは
初対面の人とお決まりの挨拶
をして時間が過ぎた。そのうち
いかにも英国流の教養たっぷり
な議論が始まった。私の入る余
地はない。
発信するものがないと相手に

もり いく え 郁 恵

折り紙

してくれない異文化に身が
引き締まった。でも、この
違和感は耐えられない。
ふと、あることが頭に浮
かぶ。紙を探し黙って折り
鶴を折り始めた。誰かが私
に気がつき「オリガミ？」
と聞いてきた。会話に夢中
だった人々がいつせいに私
を見た。

どこで習ったのか？ 日
本人なら誰でも折れるのか
？ 私から情報を得るため、
私が理解できる英語を話
してくれる。折り終わり、
これは日本の鶴だと言っ
と、感嘆の声をあげた。気
づけば私が会話の中心に
いた。日本では誰もが慣れ
親しむ折り紙が、こんな時
に役立つ。日本人でよかつ
たと思つた。平面を立体に
する折り紙は数学と深い関
係がある。数学を駆使する
理論生物学者にとって、
特段興味深かつたのかわ
もしれない。(名古屋大教授)

2011.6.17

2011.6.17 No.22